

【エッセイ】

切手をめぐって — ASEAN 創設 20 周年

吉野文雄

東南アジア調査旅行中などに時間ができると郵便局の郵趣コーナーとか趣味の切手屋などを訪れる。小学生の頃切手集めをしたことはあるが、その後積極的に収集を趣味としたことはない。

郵便局や切手屋などで「どんな切手を探してるんですか」と尋ねられるんだけど、「ASEAN に関係する切手ある？」なんて答えると、「??? 熱帯魚シリーズのほうがきれいですよ」、なんて会話を何回したことだろう。

各国が発行した ASEAN をテーマにした切手を機会があるごとに集めている。写真は、シンガポールが発行した ASEAN 創設 20 周年記念切手の初日カバー。ASEAN 創設を決めたバンコク宣言への署名の日付は 1967 年 8 月 8 日だが、この切手の発行は 1987 年 6 月 15 日だから、ちょっとフライングか。



ちなみに、創設 10 周年の記念切手を発行したのは私の知るかぎりタイだけのようだが、それは目にすることがない。熱心に集めているわけではないから。おそらく今ではネット上で注文すると手に入るのだろうが、バンコクのサンデー・マーケットとかジャカルタのスラバヤ通りとかで探すのが性に合っているので、ネットを使ったことはない。

1997 年の創設 30 周年にもいくつかの国で記念切手が発行されたし、2007 年の 40 周年は大々的に企画されて、各国の足並みがそろった。しかし、50 周年の 2017 年は、各国が記念切手を発

行したが、デザインも発行日もばらばらで足並みがそろったわけではない。そのへんが、ASEAN 研究の妙味ともいうべきものである。

というのは、2015 年末に ASEAN 共同体が発足した。これを加盟国はことほぎたかったに違いないのだが、ほんとうに発足するか多少の不確実性があったし、おそらく大晦日に記念切手を発行するというのはいずれの国にとっても例外的であろう。

そこで、知恵者が考えたのはその年に ASEAN 創設 48 周年を祝う記念切手の発行だったのではないか。これは、タイが音頭を取って、加盟各国からデザインを募集した。結果、ベトナムの提出したデザインが選択され、そのデザインで 10 カ国が記念切手を発行したのである。ただし、発行日は 8 月 8 日とは限らなかった。

2015 年の議長国はマレーシアであったが、タイは東南アジアの中では郵便制度に一日の長があり、事務総長はベトナムから選出されたレ・ルオン・ミンであった。

EU(欧州連合)とは異なり、ASEAN はあまりドキュメンテーションがよくなくて、会議外交などという言葉があるにもかかわらず、会議の内容が詳細に公表されることはない。

この年の ASEAN の会議では、IT (情報技術) に専心するマレーシアは切手などには関心がなく、「タイのいうとおりでいいよ」なんてことになって、タイは事務総長をよいしょして「ベトナムのデザインがやはり抜きんでいますね、ミンさん」なんて会話が合ったんじゃないか。

私としては、記念切手の発行状況などから会議の成り行きなどを想像するしかなく、ASEAN はまさに「想像の共同体」なのである。

以上